

## 2021年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No.1)

### 問題I 次の本文を読んで、後の質問に答えなさい。

日本語には省略が多い、という印象はあながち<sup>1)</sup> 思い込みではありません。しっぽの省略も、多い。いわゆる「言いさし」です。

ですが、これまた、だから日本語はあいまいで、ということには必ずしもならない。しっぽの省略をささえるシステムも、じつはちゃんと備えている。なかなか有能な、われらが日本語なのです。しっぽの手抜き<sup>2)</sup> に活躍するのは、副詞です。副詞というのは、連用修飾を専門としています。用言、すなわち動詞とか形容詞を修飾するのがお仕事。動詞とか形容詞は文の述語になることが多い語ですから、ちょっと乱暴に言ってしまうと、副詞とは、述語、つまり文のしっぽを修飾することが多い語です。

そして、その副詞は、大きく三つのグループに分けられます。程度副詞、様態副詞、陳述副詞です。

まず程度副詞<sup>3)</sup> というのは、何がどうだ、とか、アレがアレをコウした、とかいう文において、どのぐらいどうなのか、どの程度コウしたのか、を明確にする副詞です。たとえば、「きのう釣り落とした魚は大きかった」なんて言うとき、どのぐらい大きかったのかを説明するのに用います。「そこそこ」、「なかなか」、「けっこう」、「かなり」、「じつに」、「とても」、「ものすご〜く」大きかった、というふうです。

二つめの様態副詞というのは、何がどのようにどうなのか、アレがどのようにコウしたのか、を表現します。これはほんとうにたくさんあります。中でも日本語には擬音語・擬態語と呼ばれる一大勢力があつて、日々大活躍をしています。たとえばよその猫をほめなければならないような局面で(内心どんなにうちの猫のほうがかわいいと思っけていても)、ほめことばに困ることはない<sup>4)</sup> でしょう。

で、三つめの陳述副詞というのが、本章の本命<sup>5)</sup>、文のしっぽがなくても、「言いさし」になっけていても、これさえあれば文末が予想できるという優れものです。この「陳述」というネーミングがなんだかわかりにくさを醸し出しておりますが、陳述副詞とは、「文末を予告する副詞」です。これが使われていれば、たとえ言いさしの尻切れとんぼでも、聞くほうは相手の言いたいことが、ははん、とわかってしまう<sup>6)</sup> のです。

たとえば「ちつとも」。これも陳述副詞なのですが、「ちつとも」を使って例文を作ってみてください。「カミさんがちつとも小遣いを上げてくれません」、「私はちつとも<A>。悪いのは秘書だ」、「あんな猫ちつとも<B>のに、どこがいいのかしら」、というように、必ずしっぽのほうに、「ない」とか「ません」が出てきてしまうはず。 「ちつとも」は、「否定を<C>副詞」なのです。

否定を<C>副詞はけっこうあります。たんに否定につながるだけではなく、そこに多彩な陰影も加わります。「決して」や「まったく」といった、「ちつとも」同様きっぱり全面的に否定するものもあれば、「あまり」、「それほど」のようにやわらかく否定するタイプもある。「べつに(ほしくねーよ)」のような斜に構えた否定もあれば、「ろくに(知りもしないで)」のような否定的ニュアンスを含んだ否定もある。「一概に」、「必ずしも」のようなのは、「そうとは限らない」、「そうは言えない」のように留保つきの否定に続きます。

## 2021年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No.2)

「まさか」のように、何らかの前提や予期があった上でそれに反する否定につながる、といった複雑な働きをするものもある。

陳述副詞が予告するのは否定だけではありません。「いったい」、「どうして」、「なぜ」、「はたして」などは、<D>へとつながりますし、「もし」、「万一」、「仮に」などはいわゆるタラレバ、仮定へと続きます。「たとえ」もその仲間で、<E>の仮定「～ても」に続く。（出題の都合上、本文を改めたところがある。）

出典：清水由美（2010）『日本人の日本語知らず』世界文化社

問1 \_\_\_\_1) の副詞を本文の説明にもとづいて分類すると、どれに当たるか。

問2 \_\_\_\_2) とは何のことか、本文の記述をもとに説明しなさい。

問3 \_\_\_\_3) は大きさについて述べるときだけでなく、いろいろなものに使われる。

筆者は述語が「飲んでる」と「かわいい」の場合を例に挙げて説明している。

次の副詞をどちらに付けるのが適切かを考え、その用法の違いを説明しなさい。

{やや、いつも、たまに、とても、うんと、もっと、ときどき、しょっちゅう}

【解答例】〔どれぐらい大きいかを示す〕（かなり・じつに・とても）大きかった。

問4 \_\_\_\_4)とあるが、他人の猫をほめるために使える副詞を次の中から選び出しなさい。

そして残った語がなぜ使えないかを説明しなさい。

がつつ、ぼさぼさ、ふわふわ、おっとり、でっぷり  
ほっそり、まるまる、のたのた、ころころ、ふっくら

問5 \_\_\_\_5) と筆者が述べた理由について、本文の内容に基づいて説明しなさい。

問6 \_\_\_\_6) を説明した文として適切なものを一つ選びなさい。

ア) 言いたくても言えないことがあるのだなと理解した

イ) 実は自分をからかっているのだろうと推測した

ウ) もしかすると、こういうことかもしれないと想像してみた

エ) なるほど、そういうことを言いたかったのかと思い当たった

問7 <A>、<B>に前後の内容から推測して、適切な語句を書き入れなさい。

問8 <C>に当てはまる動詞として適切なものを下から一つ選んで、書きなさい。

{迎える、唱える、呼ぶ、叫ぶ、告げる}

問9 <D>、<E>に適切な語句を書き入れなさい。

問10 本文で言う「しっぽの省略」は「まるで／さも／いかにも」、「ぜひ／どうか／どうぞ」、「ついに／とうとう／やっと」などの副詞が使われたときに、どうなるのかを200字程度で説明しなさい。

## 2021年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語 (No.3)

### 問題II 次の本文を読んで、あとの問に答えなさい。

文化という現象が人間にとって重要なのは、それが価値の問題でもあるからです。価値というもの、あるいは人間にとっての象徴的なものを意味として与えるのが文化の大きな特質である、と言ってもいいでしょう。ですから私たちは生まれ育った文化の枠によって束縛される度合いがかなり強いということが出来ます。どんなに国際化されても、あるいは自分の文化を振り切った<sup>1)</sup> と思ったとしても、どこかに自分が生まれ育った文化をになっている、あるいはその宿命から逃れられないという側面を人間は残しています。

たとえば、ドイツで育ったユダヤ系のハンナ・アーレント<sup>2)</sup> という有名な政治哲学者がいます。彼女はナチスに迫害され、アメリカに行って、アメリカの大学で英語を講義し、本を書くようになりました。しかし彼女が第二次世界大戦後ドイツに初めて旅をしてインタビューに応じ、その中でドイツに惹かれると語っているのです。自分が育った母語としてのドイツ語に惹かれるという理由でした。ナチス・ドイツに  X  ほどひどいことをされて、アメリカで学者として名声を得て、ドイツに思いを残すことなど一切ないはずの、もとよりドイツに住む必要のない人間が、生まれ育った文化、とくにその言語に対して断ち切れない郷愁を覚えてしまうというのです。

日本人の場合は、戦争に際しても亡命したり、国籍を変えるケースは非常に少ないといってよいでしょう。逆に長年外国で成功した社会生活をおくっていても最後は日本に帰ってくるという例はたくさんあります。その場合も、帰国する動機に育った日本文化が強く影響していることが多いと思います。

一方で、とりわけ現代は、誰しも異文化と出会うという経験を持たざるをえない時代と言えましょう。どんな地球の片隅に住む人間でも、どこかで自分と違った文化と接していると言われていますが、それは、まったく孤立した文化というか孤立した人間集団は九九パーセント存在しえない、ということなのです。特に近代以降の交通手段の発達した時代になると、なんらかの形で接触することが、人間が生きるうえでの一種の宿命になってきています。

社会の中で個人は孤立しては生きられないわけで、他人と出会い、集団と一緒に生活するというのが社会的動物といわれている私たち人間の宿命です。と同時に、文化も一つの文化だけで孤立しては成立しません。自文化だけでは存在しえないのです。他の異文化と絶えず接触しながら、その影響をうけたり、また影響を与えたりしながら存続していくのが文化であると言っていいと思います。日本の文化もまさに太古以来いろいろな異文化の影響をうけて存在してきました。現在のような日本文化も、濃厚に外来の異文化の影響を受けて成立してきたものなのです<sup>3)</sup>。

このように、人は生まれ育った文化から抜け出し難く<sup>4)</sup>、同時に異文化と絶えず出会わなければならないという二つの宿命を併せ考えると、私たちは自文化と異文化の狭間はざまの中で生きていかざるを得ないし、現在は特にそういう時代だと言うことが出来ると思います。それが逆に自文化の枠と異文化の違いを感じさせもするわけです。文化をめぐる状況はとても複雑です。

(青木保『異文化理解』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

## 2021年度大学院修士課程一般入学試験（第I期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 国際言語教育専攻	日本語（No.4）

---

問1 \_\_\_\_\_1) はどういう意味か、本文の内容を踏まえて説明しなさい。

問2 第二段落の \_\_\_\_\_2) の例は、何を主張するための例として筆者は挙げたのか、説明しなさい。

問3 前後の文脈から考えて、に入る適切な指示語は何か、答えなさい。

問4 \_\_\_\_\_3) の例を具体的に一つ挙げるとすれば、何があるか。自分の考えを述べなさい。

問5 \_\_\_\_\_4) という筆者の意見に賛成か反対か自分の立場を述べた上で、その理由を具体的に説明しなさい。

問6 筆者は、現代あるいは現代社会をどう捉えているか、説明しなさい。